



小学校6年生を対象に全国学力・学習状況調査が、4・5年生を対象にみえスタディチェックが実施されました。今年度の分析結果と今後の取り組みについてお知らせします。学校と家庭が本調査の結果を共有することで、2学期以降の子どもたちの更なる学力の向上に向けて、共に取り組んでいけたらと考えています。

全国学力・学習状況調査の結果（6年生）

1 調査全体を通して

国語、算数、理科の正答率は、すべて全国平均・県平均と同程度であった。6年生として求められる学力はしっかりと身につけていると考える。

2 各教科の状況（以下、○良かった点 △課題）

(1) 国語

○物語文の登場人物が前向きな気持ちとなることを挙げていることを踏まえ、物語から伝わってくることを考えて、10字以上、30字以内で書くという問題の正答率は高かった。

○「したしむ」を「親しむ」と表記する問題の正答率は高かった。

△登場人物の相関関係について、根拠となる描写を本文中から選択するという問題の正答率は低かった。

△「はんせい」を「反省」と表記する問題の正答率は低かった。



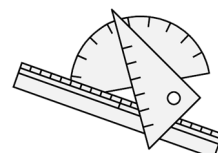
(2) 算数

○2つの数の最小公倍数を求める問題では、正答率が高かった。

○数量は変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題では、正答率が高かった。

△示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかを見る問題では、正答率が低かった。

△正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、言葉と数を用いて正三角形の構成について記述できるかどうかをみるプログラミングの問題では、正答率が低かった。



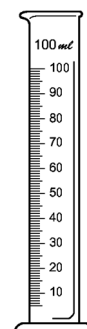
(3) 理科

○メスシリンダーという器具の名前や正しい扱い方について理解しているかをみる問題では、正答率が高かった。

○自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して改善し、自分の考えを持つことができるかどうかをみる問題では、正答率が高かった。

△課題を解決するために必要な記録の内容について検討したり、予想が確かめられた場合に得られるグラフについて検討したりする問題では、正答率が低かった。

△水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかどうかをみる問題では、正答率が低かった。



3 学習や生活の状況「児童質問紙」から

- 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じぐらいの時刻に寝ている」「毎日、同じぐらいの時刻に起きている」など、生活リズムが整っている割合が高い。
- テレビゲームやスマートフォンの一日あたりの使用時間が短い。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と回答した割合が高い。
- 「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答した割合が高い。
- 「理科の授業は好き」「理科の授業の内容はよくわかる」と回答した割合が高い。
- △「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した割合が低い。
- △「友達と協力するのは楽しい」と回答した割合が低い。
- △「家で計画を立てて勉強をしている」と回答した割合が低い。
- △ 学校が休みの日に、勉強している時間が短い。
- △「授業でICTを使っている」と回答した割合が低い。
- △「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という問いに、肯定的に答えた割合が低い。

みえスタディチェックの結果（4・5年生）

1 調査全体を通して

4年生では、国語が県平均をやや下回り、算数は県平均をやや上回った。5年生では、国語、算数、理科共に、県平均をやや上回った。

2 各学年の状況

【4年生】

- 考えとそれを支える理由について、叙述を基にとらえることができている。
- △指示語、漢字、ローマ字の定着が弱い。
- 数の計算、分数や図形の理解について強みがある。
- △グラフから読み取り、間違いを説明する問題については、弱みが見られた。

【5年生】

- 接続語、漢字、ローマ字、主語・述語の関係などの基礎的な知識が定着している。
- △常体と敬体の違いに注意しながら書くことに弱みがある。
- 数の計算、角、面積の理解について強みがある。
- △二次元表の中の数が示す事柄を読み取り、その内容を示す問題については、弱みが見られた。
- 気温、星の理解について強みがある。
- 空気と水の体積変化について説明する問題については、強みが見られた。

今後の取り組み

- ・意見を述べるときに、本文から根拠を探して説明する経験を重ねる。
- ・資料から言葉や文を取り上げ、○文字以上○文字以内という制限内で書かせる。
- ・提示された式で求めることができるわけを、言葉と数を使って書かせる。
- ・図形の性質について、プログラミングを通して理解させる。
- ・グラフや表からどんなことが結論付けられるか考えさせる。
- ・水蒸気や質量、熱、電気など目に見えない事象についての理解を深める。
- ・実験計画を立てる場面で、どのようなグラフや表を使って結果を表せばよいか考えさせる。



以上のことに重点を置いて授業改善に取り組んでいこうと、職員間で確認しました。また、2学期以降はタブレットを持ち帰る機会を増やします。ご家庭におかれましても、タブレットドリル等を活用しての自主的な学びに意欲が向かうよう言葉がけをお願いいたします。